

SNSでの情報漏洩トラブル

埼玉県教育委員会

SNSの普及により情報を発信することも情報を取得することも容易になりました。しかし、誰もが利用できるからこそ、取り返しのつかない事態に陥ることがあります。

情報の流出による2次被害

Aさんのお家に遊びに行ったBさん。
AさんとBさんは写真をたくさん撮りました。

Bさんは家に帰った後、Aさんと撮った写真をSNSにアップロードしました。数日後、BさんはAさんから最近家の周辺をうろつく不審者を見かけることや自身のSNSへ外部からログインを試みる形跡があると相談を受けました。



うろついていた不審者はSNSでBさんがアップロードした写真を見て好意を抱き、写真の背景にうつる景色や住所から場所を特定したのです。

また、写真の背景にはAさんがSNSへのログイン情報を忘れぬようにメモしていた紙が写りこんでいました。そのため、写真を見た人がAさんのアカウントへログインを試みていたのです。

不審者の件は警察へ報告、ログイン情報の件は情報を変更することで大事には至りませんでした。



投稿による被害や影響を想像できていれば...

個人情報や個人情報を特定できるものを誰でも見られる場所に置いておくことは危険です。ただし、どんなに注意していても、中には映り込んでしまうものがあります。今回のケースにおいては、ログイン情報を記載したメモは机の引き出しに保管して隠しておくことができます。しかし、電柱に書かれた住所はカーテンで遮ることはできませんが、書かれていること自体は隠しようがありません。

投稿した本人ではなく、一緒に写っている人に影響を及ぼしたり被害を与えてしまうことがあります。写真を撮るとき、アップロードする際の注意が必要です。



思い出に残したい、誰かに見てもらいたい、そのような気持ちは誰もが持ち合わせています。しかし、だからといって注意なく写真をアップロードしてはいけません。個人情報が含まれていて、自身や他者を被害にあわせてしまう可能性があります。写真をアップロードする前に、どんなものが写っているか、写っていたら困るものはないか、アップロードした後、どのようなことが起こるのか想像し、時には写真をアップロードすることを止めるという正しい判断ができる力を身につけましょう。